

令和5年度 学校評価総括表

天理市立二階堂小学校

前年度の成果と課題	・児童の学びを保障し、基礎学力の定着を図るため、6回の研究授業と2回の全体研修に取り組んだ。「きく」ことは、児童アンケートで90%を超える数値を保っている。しかし、自分の考えを伝えることには、まだ課題が残っている。 ・1対1の挨拶はできるが、みんなへのあいさつは自分に挨拶をされている意識が薄く、返せていない児童も多い。挨拶が課題であることは児童も実感している。 ・退勤時刻を意識した業務を行い、19:00(木曜は18:00)にはほぼ学校を施錠することができた。職員アンケート「職場は働き方改革に努めている」も、昨年度66%から本年度88%に評価が上昇している。今後も、学校全体で業務改善を図っていく。		総合評価  4		
評価項目	具体的方策・評価指標	評価	具体的な成果と課題(評価の分析)	課題の改善方策等	学校運営協議会での評価
(1) 児童生徒を主体に考えた教育の推進	きくことや自分の考えを伝えることを大切にし、児童が「だれ一人 1人のこされない授業」の実現を図るための研究授業を年6回実施する。	4	多様な教科における研究授業を年6回実施し、授業づくりについて学年部全体で考え取り組むことができた。子どもたちの声を大切にした授業が行われていたことは成果であり、「だれ一人 1人のこされない授業」を進めていくための手立てについて、職員全体でより一層深めていきたい。	対話による学び合い活動が、分かっている児童による意見を述べるだけの活動で終わっていないか、「授業で学ばせたいこと」や「だれ一人 1人のこさない授業」が実現されているかを見取る眼を養う。	対話による学び合い活動や集会活動を通して、児童による主体的な学びを培っている。
	児童が主体的に取り組む児童会(集会)活動を、8つの委員会すべてが年間1回以上取り組む。	4	各委員会において、児童が主体的に常時活動や児童会(集会)活動を考え、積極的に活動することができた。	児童が考えた取組について、可能な限り実行できるように、安全面や環境面を考え、体制を整える。	大事なことは教え、ほめて育てる指導を通して、お互いの個性を認め合える児童を今後も育てていってほしい。
	お互いが認め合い支え合うことができるなまづくりを目指した集会活動を、年間3回以上実施する。	4	平和集会・おりづる集会・人権作文集会などの集会を行い、子どもたちが人権や平和についての考えをもつ良い機会になった。	今までの取組を大切に継続していきたい。6月の沖繩慰霊の日や折り鶴集会では、掲示物などで事前の広報をより一層充実させていきたい。	
(2) 新たな時代を生きる児童のための教育の推進	生活科・総合的な学習の時間や委員会活動を通してSDGsに関連する取組を実施し、持続可能な未来社会を実現するために取組を外部へ発信する。	4	各学年が食糧問題や環境問題について学習した。ペットボトルキャップの回収では、環境美化委員会の児童が集計し、報告することができた。フードドライブでは、給食委員会の児童が案内を作成し、全校児童に呼びかけることができた。さらに、ユニセフ募金、赤い羽根共同募金にも児童会の児童が中心となり、取り組むことができた。	各学年や学校全体で行った取組を学校ホームページに掲載したり、ポスターで掲示したりする等の取組を通して、外部へより一層発信したい。フードドライブについては、地域にも案内を配布したり、公民館での実施と連携するなど、協力して実施できるとよい。	ChromebookやiPadを効果的に学習に活用している。SNSの誤った使い方によるトラブルが大きな問題に発展しないように、今年度も高学年でスマホ教室を開催したが、発達段階に応じて低学年から情報モラル教育を進める必要がある。
	ChromebookやiPadを活用した授業を各学年で随時取り入れ実施する。	4	資料の配布や意見の共有、インターネットによる調べ学習、ミライシードによる単元の復習等、ChromebookやiPadを活用した授業を各学年で実施することができた。今後、情報モラルの教育やICTの幅広い活用方法をより一層充実させていきたい。	低学年から発達段階に応じて情報モラル教育を進める。また、ICTのさらなる活用方法を教職員間で共有したり、研修を受けたりして学び合う。	
(3) 読むこと・書くことに焦点化した学力向上の推進	読解力向上のために、3～6学年で「よむYOMUワークシート」等を週1回取り組むとともに、授業では文章から自分の考えの根拠を見つけるように取り組む。	4	授業中の発言や振り返りで、根拠を明確にして自分の考えを表現することができている児童が多くなってきたが、なかなか根拠を見つけれない児童もいる。	毎週火曜の朝タイムで、5・6年生が「よむYOMUワークシート」に継続して取り組むことで、文章に読み慣れることを目指す。授業では、読んで考えたことを根拠を明確にしながら発表する学習活動を大切にしてい。	魅力的な図書の購入や、読み聞かせや図書環境ボランティアによる充実した読書活動。週2回の読書タイムなどにより、児童の読書習慣が定着しつつある。
	書く力を育成するために、特に高学年において、課題に対する文章記述による解答や授業のまとめ、感想等を書く活動を積極的に行う。	3	自分の考えを書く活動を継続することで、自分の言葉でまとめることができるようになってきたが、文としてまとまっておらず、伝えたいことが読み手に伝わりにくい児童もいる。	自分の考えを書く活動を継続するとともに、書き方の型を提示するなどして指導する。	週1回、高学年で取り組んでいる「よむYOMUワークシート」により、「読む力」「書く力」が効果的に身に付いていることが児童の振り返りによって評価することができている。
	週2回、朝タイムに全校読書タイムを設け、地域ボランティアの方による読み聞かせや児童にとって魅力ある選書を行いながら、児童の読書習慣の定着を図る。	4	水・金の週2回、読書タイムとしてわくわくタイムを設けた。地域ボランティアさんに本の読み聞かせをもらったり、各学年に応じた本を選書(本の宅配便)してもらった。これにより児童の読書習慣の定着を図ることができた。	子どもたちの読書の幅を広げるために、学校全体の蔵書数や図書室の環境整備を充実したものにしている。	
	みんなの学校プロジェクトについて、学校運営協議会や地域学校協働本部、公民館等と協議し、学校と地域のつながりが深まるような取組を推進する。	4	みんなの学校プロジェクトについて、地域・学校・保護者でペットボトルキャップを回収し、現在累計178,400個(446kg)、111.5本分のワクチンを寄付することができた。	学校では、環境美化委員会が主導し、地域では区長会や公民館に積極的な協力をいただいた。今後は、児童が地域と繋がれるよう計画していきたい。	保護者・地域(区長会)・児童の協力でエコキャップを集め、12月現在、累計92,800個(232kg)・ワクチン58本を寄付することができ、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会より感謝状をいただいた。
	地域学校協働本部と連携し、地域の方と協働した授業を年3回以上、公民館活動を年1回以上実施する。	4	校区婦人会と5回、民生委員と1回、長寿会と1回、地域ボランティアと3回の授業を行った。公民館で活動する方にクラブと大正琴教室の指導をしていただいた。	公民館活動団体の意向について確認しながら、児童にとっても有意義な公民館活動を学校施設でともに実施できるよう計画していきたい。	登下校見守りボランティアへの挨拶の声はまだまだ足りないが、挨拶に会釈で返す児童は増えてきた。たとえ声の大きさが小さくても、目と目を合わせて感謝の気持ちを込めた挨拶ができるよう、もっと児童に働きかける必要がある。
	地域の方への感謝の気持ちを育み、気持ちのこもった挨拶ができるよう意識付ける。	3	挨拶しようとする気持ちは持てるようになってきている。声は出せなくても、会釈をしようとしている。言葉で伝えられる児童を育てたい。	教職員全員が誰とでも挨拶する姿を率先して示し、誰もが挨拶をして良かったと思えるような雰囲気を作っていく。みんなの安全を守るために、地域の人が見守ってくれていることを継続して伝えていきたい。	
	教職員が、幼稚園・保育所での幼児の活動の様子を見たり情報交換したりする機会を、年2回以上設定する。	4	今年は2回の二幼研究保育を、主に通級指導教室担当、特別支援教育コーディネーター、人権教育推進教員、管理職を中心に参観した。保育の様子については、人権教育推進教員が避難訓練の様子やふれあい祭りのダンス発表を参観した。	今後も情報交換の機会を大切にする。今年は幼稚園、保育所の先生だけでなく学童、児童館、すばるこどもセンターの職員も学校の参観に来てくれた。このような機会を今後も大事にしたい。	出前保育や園内研修会、就学前の情報共有等を通して幼児での幼児の姿や生活を知ることを実施させる必要がある。その上で、幼保小が協働して「幼保小接続」を円滑に進められるよう力を合わせて取り組んでいきたい。
	教職員が、幼稚園・保育所の職員と協働して保育活動することを、年2回実施する。	4	人権で二幼・嘉保にて各2回出前保育を行った。また、作品展見学で本校の際に1年生と「かもつ列車」をしたり、1年生が行う秋祭りに招待したりした。新入生1日体験入学は5年生のエスポートで行った。	交流はそのままだ連携すること「幼保小接続」につながる。事前の打ち合わせを密に行っていた。また、入学後、卒園所に幼児期の様子を見聞きすることも大切にして、幼保小接続がスムーズに行えるように図ってきたい。	
	クロックアウト19時・毎週木曜18時施錠を徹底し、学校全体の業務改善を図る。	4	退勤時刻を意識した業務を行い、19:00(木曜は18:00)に学校を施錠することがほぼできている。職員アンケート「職場は働き方改革に努めている」も、昨年度88%から本年度96%に評価が上昇している。	全体的に退勤時刻は早くなったが、自宅への持ち帰り業務が増加しないように、学校全体で業務改善・行事の精選を図る必要がある。	教員不足や教員の多忙が深刻な状況であることがよく分かった。クロックアウト徹底や職員会議のペーパーレス化等により、働き方改革が推進できているように感じるが、業務改善に地域力も活用しながら、教員の負担がこれ以上増えることのないように今後も進めていきたい。
	ペーパーレス化するとともに案件を工夫し、職員会議を1時間30分以内で実施する。	3	ペーパーレス化に伴い、職員会議を効率よく進めることができていた。課題としては、職員が事前に会議資料を認知できていない部分もある。また案件によっては、1時間30分を超える時もある。	ペーパーレス化は時間短縮ではない。提案者は共通理解しなければならぬ事項だけを述べ、他職員は案件内容をしっかり確認することを徹底することにより、職員会議を短縮していく。	
	校務支援システムを活用して、打合せ内容をデータ化して共有し、打合せ回数と時間を減らす。	4	校務支援システムの掲示板を活用することにより、その日の確認事項を共有することができ、職員打ち合わせを週1回にすることができた。しかし、掲示板を確認していない職員がいることもあり、支障が出ている場面もある。また、校務支援システムを校内全体で活用する上で、教務の負担が大きい。	毎日の掲示板を必ず前日に確認することを職員に徹底する。	